# アジア委員会

## 前委員長 槍田 松瑩（三井物産 取締役社長）

# 真のチームスピリットを構築し アジアと共に発展することが使命

槍田 松瑩
うつだ・しょうえい
1943年東京都生まれ。67年東京大学工学部卒業後、三井物産入社。電機本部電気機械部長、機械・情報総括部長を経て、97年取締役機械・情報総括部長、98年取締役情報産業本部長、2000年常務取締役業務部長、2002年専務取締役兼専務執行役員CSO、2002年取締役社長に就任。
2002年経済同友会入会、2004年より幹事。2003～2004年度日本アジア交流委員会委員長、2005～2006年度アジア委員会委員長。

**アジア委員会**

**概要**
東アジアにおける経済協力、対アジア戦略等の課題を検討。「日本・ASEAN経営者会議」等、交流活動も行う。

**委員長**（委員79名）
・萩原 敏孝
（小松製作所 取締役会長）

**副委員長**
・井上 輝一
（豊田合成 顧問）
・梶 明彦
（ジャルパック 取締役社長）
・菅田 史朗
（ウシオ電機 取締役社長）
・竹田 駿輔
（オリックス 取締役兼執行役副会長）
・玉越 良介
（三菱東京UFJ銀行 取締役副会長）

（アジア委員会 委員長は、2006年12月15日に槍田 松瑩氏から萩原 敏孝氏に交代）
（インタビューは1月19日に実施）

### ASEAN10＋日中韓が揃い、環境・格差・中小企業問題を討議

昨年11月の「日本・ASEAN経営者会議（AJBM）」には、32回目にして初めて、ASEAN10すべての国の経営者が揃いました。これまで様々な働きかけを行ってきましたし、私の念願でもありましたから、大変感慨深いものがあります。また、第30回会議で東アジア経済共同体（EAEC）の設立を求める共同声明を採択して以来、中国・韓国が何らかの形で関わるべきだと思っていました。今回、発言権のあるオブザーバーという資格ですが、中国・韓国からの参加者を迎えることができました。民間ベースで「ASEAN10+3」の会議を先駆的に実現できたことは、大きな意味があったと思います。

今回の会議で特に印象に残ったテーマは、「環境」と「格差」です。環境については、成長段階に関係なくすべての国が強い関心を持っていることが確認できました。

また、ASEAN10の中には大きな格差が残されていますが、日本とASEAN各国との2国の関係性の中では、あまり認識されていません。これを放置したままでは、いいチームスピリットは生まれにくく、日本とASEANが共同して行動する際の障害となるでしょう。この問題については私も以前から発言してきましたが、ASEAN全体と日本が同じチームメンバーとして、格差是正に向けた協力を行っていく必要があると強く感じています。

その他、中小企業の問題も大きなテーマでした。ASEAN諸国は、発展のためには中小企業が育たなくてはならないと考えており、この面で日本のサポートを期待する声が昔からあります。ですが、中小企業の裾野が広がっていくには、それを引っ張るキーになる企業がいろいろな専門分野になければならないのだと思うのです。

### 謙虚な姿勢になって、アジアの同胞と共に発展

AJBMの議長・共同議長を3年間務めてきましたが、ASEANと日本の関係を改めて問い直してみると、本当の意味でパートナーシップのチームになっているかどうかは、まだ疑問です。日本人も、日本企業も、優越感を持ってアジアの人々に接しているとすれば、それは変えていかなければなりません。「同じアジアの同胞、仲間なのだ」という意識を醸成していく必要があると、強く感じています。

今、世界中で最も経済発展が著しく、人口も増え続け、“世界のエンジン”となっている地域がアジアです。その一員として、本当のチームスピリットをASEANの人と一緒につくり、皆が幸せになるような活動を展開していく。これが日本に課されたアジアでの役割、最大の使命だと思います。

※「第32回日本・ASEAN経営者会議（インドネシア・ジャカルタ）」の報告は19～21ページに掲載。